



第三話
～ 今を生きる ～

ver 1.0

じーこ 澤田

コダージさん、寒くなってきましたね。

**うん、どうしたワトサンくん。
君も心なしか、気持ちが冷え込んでるように見えるぞ。**

**はい・・・、やっぱり分かっちゃいますか。
実は悩み事があるって・・・。**

何か相談にのろうか。

**はい・・・今、大丈夫ですか。
できれば・・・、お願いしたいです。
先日、任せてもらった件なんで・・・
実は・・・言い出しにくくて・・・**

あ～、あのお母さんの相談の件か・・・

**そうなんです。
あのお母さん、娘さんのことをとっても大切に
していて、娘さんのことを常に気にされているので
すが、娘さんが反抗期なのか、お母さんを避ける
そうなんです。**

**ああ、そうだったね。
どうしたら娘さんと良い親子関係を作れるか、
相談に来たんだよね。**

**はい、そうなんです。
コダージさんが僕にこの件を任せてくれる・・・
というので、僕も張りきって頑張ったんですよ。**

どんな風なアドバイスをしたんだい。

『娘さんを自由にしてあげましょう』
って、アドバイスしたんです。

おお、いいじゃないか。

そりゃ、そうですよ。
コダージさんが教えてくれたとおりのアドバイス
ですから・・・。

あれっ、そうだっけ。
・・・で、どうなった。

きのう、そのお母さんが来たんです。
そうしたら、すっかり娘さんとの関係が
良くなったって・・・喜んでくれてるんですよ。

良かったじゃないか。
大成功じゃないか。

はい、そうなんですけど・・・。

ん？ それじゃ、だめなのか。

お母さんが喜んでいるのは良かったんですけど、
僕にはなんで親子関係が改善したのか、全くその
意味が分からないんです。
なんか、自分の力で結果を出した気がなくて、
まだまだだなあ・・・って、感じて・・・落ち込ん
じゃってるんですよ。

う～ん、そうか。
ワトサンくんにアドバイスしたいことは、
いろいろあるけど・・・、

さて、何から話すかな。ふむ、ふむ。
よし、ここからスタートしよう。

よ、よろしくお願ひします。

では、聞くよ。
ワトサン君の今の悩みはなんだい？

へっ。
だから、さっきも言ったとおりで、
何で親子関係が良くなったか分からないんですよ。

それは本当かい？

**本当ですよ。
お母さんものすごく喜んでくれていて、
ものすごく良い親子関係になったようです。**

いやいや、親子関係が本当に良くなったかどうかを聞いているのではなく、ワトサン君が今悩んでいることは、「親子関係が良くなった理由」なのかどうかだよ。

**えっ。そうですよ。
親子関係が良くなった理由を知りたいんです。**

全然僕には分からないんで、
ほんと自分ってダメだなあ・・・
って、・・・落ち込んでいるんです。

そうだろ。
悩んでいるのは、「自分がダメだ。」
って言う事じゃないのかい。

えっ、どういうことですか？

確かに、君は「親子関係が良くなった理由」が分からない。

でも、親子関係が良くなった理由が分からなくて悩んでいる
のではなくて、その理由が分からないので自分をダメだと思
っている・・・そうだろ。その事に、ワトサン君は悩んでいる
んじゃないのかい。

あっ、そうですね。
なんかこんがらがってきたぞ・・・、
でも確かに、そんな気がします。

そうだろ。
つまり、ワトサン君は本当に自分が悩んでいることをすり替
えてしまっているんだ。これは相談に来る人みんなによくあ
ることだから、覚えておくといいよ。

心配はいらない。人間の心はこういう仕組みになっているん
だ。ワトサン君が劣っているわけでもなく、この体験を通し
て、ワトサンくんはこの事を学ぶタイミングだったんだね。

へ～、そうなんですか。

**そう言ってもらえて安心しました。
また、自分を責めるところでしたよ。**

そう、自分を責めるのは、本当に辛くなるからね。

**なんか、ちょっと楽になった気がします。
目の前のモヤが晴れた感じですよ。
ありがとうございます。**

**ワトサン君、君は単純だなあ。
その素直さが、君の良さだけどね。**

はい。

**では、心のモヤが晴れたところで、
少し前に進んでみようか。**

はい。お願いします。

ワトサン君、君は自分の悩みの原因を取り違えていたよね。

必死に悩みを解決しようとしているのに、悩むポイントを取り違えて取り組んでいたら、良い解決方法は見つかりようがないよね。

**算数の答えを出したいのに、国語の勉強を必死にしているよ
うなものだ。**

ほんと、そうですね。

では、相談に来たお母さんはどんな取り違いをしていたんだと思う？

えっ、あのお母さんも取り違えて悩んでいたんですか。

そうだよ。

お母さんは娘さんに幸せになって欲しいと思っていたんだよね。それで、必死に勉強させているって言っていたね。

はい、言っていましたね。

娘さんが幸せになるのは、たくさん勉強して教養を身につけて、幸せな未来を掴むことだとお母さんは頑なに信じていて、娘さんにそうなれるように日々言い続けていたわけだ。

はい、その通りです。

一番の取り違えは、いつ幸せを感じるかだ。

えっ、どういうことですか？

**幸せになるのは未来じゃない。『今』なんだよ。
今、幸せになれない人は、未来にも幸せにはなれない。**

**だって、未来が来ても、その時は「今」なんだから、
今に幸せを感じる方法を身につけていなければ、その瞬間にも
幸せを感じることはできないだろ。**

ま～、そう言うことになりますね。

つまり、お母さんが娘さんと良い親子関係を持とうとした時、どんな関係が良いのかといたら、今を仲良く幸せに感じ合える仲になることだったんじゃないかな。

たしかに、今、幸せを感じることは大切ですね。

お母さんはどうやって娘さんと良い親子関係を感じられたって、言ってた。

え～とですね。

僕のアドバイスしたとおり、娘さんをできるだけ、自由にさせてあげるようにしたんだそうです。そうしたら、徐々に関係が良くなってきて、娘さんの態度が柔らかくなってきたそうなんです。

うん、うん、それで。

娘さんがある日、風邪をひいて、寝込んでしまったそうなんですけど、その時に娘さんが「お母さん、そばにいて」って、甘えてきたそうです。

お母さんはその一言が、とってもうれしかったそうです。

それだ。

ものすごく、些細なことのようだけど、そんな甘えてきてくれる娘さんが、お母さんは愛おしかったんだろうね。

風邪をひいている娘さんに、「宿題をやれ」とか、「あれをやらなきゃダメだ」とか、さすがにお母さんも言わないだろ。

さすがに言いませんね。

きっと、「温かくして、ゆっくり寝てなさい」って、何も余計な事で包んでいない一番心の底にある愛情を、素直に娘さんに表現できたんじゃないかな。

大人になると、あれやこれやと未来の事をついつい心配をしてしまう。そのあまり、幸せになる方法が、勉強して良い学校に入ることになってしまったり、良い結婚相手を見つけることになってしまったりするんだ。老後のお金の不安をなくすことになってしまったりすることもあるね。

そうかもしれませんね。大人になると未来に対する心配を優先して、今、幸せであることを当たり前にして、時には今の幸せを棒に振っているかもしれませんね。

そうなんだ。心配をなくすために、今感じられる幸せを犠牲にしてしまいがちなんだ。未来のために何かに取り組むことも大切だけど、目の前の幸せを見逃していたら勿体ないだろ。

本当ですね。

これが、お母さんの悩みの取り違いだ。

風邪をひいて、余計なエネルギーがなくなり、娘さんもお母さんも、今一番大切なことに意識を向けられるようになったんだね。

そう言うことなんですね。
納得です。

コダージさんはすごいな。
何でもお見通しなんですね。

そんなことないさ。これは、僕がすごいわけじゃないんだよ。

そんなご謙遜を……。じゃ一体誰がすごいって言うんですか？コダージさん以外にいないじゃないですか。

もうひとり、いるだろ。

え～、誰ですか？お母さんですか？
まさか・・・、風邪をひいた娘さん？

違うよ。君だよ。ワトサン君！

え～、僕ですか。僕はすごくないですよ。
やっぱり僕ひとりじゃ絶対に
分かりませんでしたよ。

コダージさんのおかげです。
やっぱりコダージさんはすごいです。

何言ってるんだ。そんなに自分を卑下することないぞ。

お母さんが書いてくれた、アンケートの感想欄をちゃんと読んだか？

『ワトサン様、ありがとうございました。ワトサン様のアドバイス通りにしていたら、日ごとに娘の態度が変わっていききました。今は娘と仲良くしています。こんな幸せが身近にあったことに気づくことができました。ワトサン様はスゴイですね。これからも、悩める相談者の力になり続けてください。』

でも、これは僕の方じゃないことは
コダージさんも分かっているでしょ。
全部コダージさんが言ったとおりに
アドバイスしただけなんですから。

それでいいじゃないか。

僕がこれまでにワトサンくんにアドバイスしていることだ
って、僕が発見したことなんて一つもないんだぞ。

えっ、そうなんですか。コダージさんも誰かに相
談しているんですか？

いや、流石に今はあまり相談はしていないよ。でも、僕にだ
って師匠がいる。師匠が以前に教えてくれたことを伝えている
だけだし、本で読んだことを伝えることもある。

人から聞いたことだって、伝えた相手にとっては、聞いた人
から教えてもらったことだ。伝えた人の力だと素直に喜べば
いいんじゃないかな。

いったい、ワトサンくんは何に喜びたいんだい。

う～ん、確かにそうですね。
あのお母さんは、僕がアドバイスしたことを
あんなに喜んでくれてますもんね。
それでいいのかもしれないですね。

そういうこと。

ワトサン君、君は今また問題の取り違いをしていることにきがついているかい。

えっ、何ですか。

相手が喜んでくれているんだから、それは素直に喜べばいいわけなのに、

ワトサン君の気持ちの中には、
『自分の力で結果を出したい。』
と言う気持ちもあるわけだよな。

自分の力って、自分が発見したこと・・・って勘違いしてないかい。

えっ、そうじゃないんですか。

ちがうだろ。僕だって自分が発見したことなんて一つもない。
さっきも言っただろ。

あっ、そうか。

ボクだって生まれた時は赤ちゃんだったんだよ。その頃は何も知らなかったし、何もできなかった。そりゃ、そうだろう。赤ちゃんだからな。何でも知ってたら、ビックリだ。

赤ちゃんですからね、そりゃそうですよね。

だけど、学校でいろいろ学び、師匠に教わったことや、先人たちが本に書き残してくれた事からいろいろ学んで、ちょっとは物知りになれたなか。でも、この世のことを全て知っているわけじゃない。百科事典じゃないからな。

う～ん、確かにそうですね。

つまり、ボクが知っていることは、他人に教わったことばかりだ。そして、その教えてもらったこと、他人が発見したことを伝えているだけだ。

どんな物知りな、スゴイと思える人でも、単なる伝道者ではない。

そうか。自分の力で結果を出したと思っていることって、単にそこに自分が関わっただけとも言えますね。

そういうこと。僕の助言も伝わらなければ相手は喜ばない。素直に伝えて結果を出したのは、ワトサン君、君の実力なんだ。

え～、そうなんですね。
なんか、自分って結構すごい気がしてきました。

コダージさんの力も僕の方って思っているんですか。

そのとおりさ。僕に教えてもらったことを活かそうと思って、日々僕の話の話を聞いているんだろ。それを実践しているのはワトサン君、他にもない君の方だよ。

自分ひとりで何かをやり遂げようとするその気持ちが幸せを遠ざけてしまう。幸せな結果を手に入れられるなら、誰がやったっていいじゃないか。

**そうですね。
なんか、すごい気持ちが楽になりました。
ありがとうございます。**

**こんな貴重な話を聞くチャンスをくれた、
あのお母さんと娘さんに感謝ですね。**

まったくだ。

感謝、感謝・・・だな。

おしまい



☆人生ドクター☆じーこ 澤田 Koji Sawada

心のケアのできる総入れ歯専門医
心育てのリアルアイセミナー

<http://souireba.com/>
<http://jicolize.com/>

2012年12月15日